これから大学教育はどうなる？ 新しい学びのあり方とは

「良心教育」を建学の精神とする同志社大学。本日11月29日は、新島襄が同志社大学の前身、同志社英学校を設立した創立記念日です。現在、新型コロナウイルス感染症との共存が模索されていますが、大学教育はこれからどうあるべきでしょうか。今年就任した植木朝子学長と、同志社大学OGで朝日新聞経済部兼GLOBE記者の藤えりかが、大学教育の現状や学びのあり方について語り合いました。

女子学生は約4割に、女性教員の増加に期待

藤　同志社大学初の女性学長誕生に、卒業生としてうれしく思います。

植木　ありがとうございます。本来なら女性学長がもっと増えて、珍しくなくなるのが一番です。

藤　私は大学で法学部政治学科に所属し、ゼミ(日米外交史)では最終的に女性は一人でした。植木学長は創立150周年に向けて策定した「同志社大学VISION 2025」やダイバーシティーの推進をうたっておられますが、女子学生や女性教員を増やすお考えはありますか。

植木　理工学部では、女子高生に理系の学問の面白さを発信する試みをしています。学びたい分野は個人によって様々なので、無理に女性を増やすことは考えていませんが、私の所属する文学部では、女性教員の採用が増えてきています。哲学科は女性教員がゼロでしたが1人採用になり、全学科に女性教員がそろいました。今、平均すると女子学生の割合は約4割。その学生たちが大学院に行き、大学で教員になるには少し時間が掛かりますが、だんだん増えていくと思っています。

藤　私が在学中は、法学部で女性教員を見た記憶がないです。

植木　今は法学部には17人ほどの女性教員がいます。大学内の役職に就く機会があれば、なるべく女性に入ってもらうようにしていて、副学長にも女性がいます。また女性学部長も増えていますね。

藤　優れた女性候補をフェアに選ぶのは大事なことですね。私は記者になって27年半ですが、長く仕事をするにつれ数は大事だと思うようになりました。後輩の女性たちから「役職者やロールモデルの女性がいない」といわれ、私たちの世代の多くが役職に就く機会や権限もなかなか得られない現実から、若い人たちが希望をもてなくなっているのではないかと懸念しています。ですから、女性学長の存在そのものが大きな励みになります。

ネット配信と対面を活用した学びの新展開

藤　新型コロナウイルス感染症の終息が見えませんが、同志社大学のキャンパスには多くの学生さんがいて驚きました。

植木　春学期は全てネット配信授業でしたが、秋学期からは対面とネット配信のの形態で授業を実施しています。ただ、感染対策をしながらなので、学生にとってはまだまだ対面授業は少ないと感じられるようです。繰り返し視聴することで授業の理解が深まるとして、ネット配信授業を望む声もあります。

藤　対面授業が増えて、学生の学ぶ雰囲気は変わってきましたか。

植木　ネット配信授業は分からないところを繰り返し見直せる良さがありますが、教員に直接質問したり学生同士で話したりして、場所と時間を共有することは本当に大事だと思いました。対面授業が始まった日にメディア取材があり、学生生活の中でしたいことを問われた1年生は「知り合った友だちと大学の食堂でご飯を食べたい」と答えていました。授業だけでなく友だちとの交流や正課外の活動からの学びも多く、その機会をなるべく作りたいと思っています。

藤　コロナの影響でアルバイト先が閉店するなど学生の経済状況の悪化も深刻です。同志社大学ではどのような支援をされていますか。

植木　新しい授学金を創設し、経済状況が困窮した学生に手厚い支援をしています。学生が大学内でアルバイトができるように、例えばネット配信授業の補助などを考えているところです。

藤　アメリカの大学で教える友人から、日本と比較にならないほどキャンパスが閉じ、学生の進学延期や教員のリストラで大混乱だと聞きます。その分、日本の大学で学びたい海外の学生はいますか。

植木　コロナ禍においても、日本で学びたいという学生の声も聞きます。海外から招聘する客員教授には、入国後に必要な滞在期間のホテル代を大学で出すことを決めました。本学の留学生にもそれに準じる対応を考えています。

藤　同志社大学はドイツにもキャンパスがありますし、学ぶ機会を失った海外の学生の一つの受け皿になるといいですね。一方、国内ではコロナ禍の中で在宅勤務が増え、通勤時間がなくなった学びたいという社会人もいます。

植木　本学にはビジネススクールがあり、春学期はすべてオンライン授業でした。通学時間が必要なくなり、科目が取りやすくなったという声も聞きますが、社会人の方は対面授業を求める声も根強いです。

藤　先日、ネット系企業の方と大学のオンライン教育のあり方について話をしました。その方は「大学の教員は個性ある方も多い。ユーチューバーになるくらいの気持ちで授業をすれば、オンライン教育もより魅力的になるのではないか」と言われ、確かに一理あると思いました。

植木　もともとネットで発信する技術と経験がある教員は学生たちが満足するコンテンツを作成できたとしても、それが難しい領域もあり、全員がすぐに対応するのは困難です。しかし教員もネット配信にだんだん慣れてはきています。

藤　文学の領域では対面授業とネット配信授業に違いはありますか。

植木　作品を読むのは一人でもできますが、どう読んだかを議論することも必要です。オンラインの授業になると力メラに映るのが嫌だったり、データ量が多くなったりしてカメラをオフにする学生がいて顔が見えず、不自由なところがあります。

藤　リアルに討論したり、発表したりする場が大学で減るのは心配ですが、オンラインとうまく組み合わせれば、思索や読書の時間も増やせますね。

植木　落ち着いて考える時間を取り、じっくり学ぶことは必要だと思います。最近の学生は創とアプールが上手で、自分の思いを相手に訴える力は持っていますが、何を根拠にその発言をしているのか、知識の裏付けが弱くなってしまっています。知識を養うことと自分の意見を伝えること、両方のバランスが大切です。

多様性のある環境に息づく良心教育

藤　同志社だけでなく、コロナの影響で大学のあり方が問われていますがどのようにお考えですか。

植木　感染者への誹謗中傷や他人に自粛を強いる「自粛警察」など倫理的な問題が起きていて、同志社大学の「良心教育」の真価が問われているように思います。

藤　私は人間の諸問題をめぐって、学内外の様々な分野の人々に奨励を頂ける「チャベル・アワー」が好きで、人権教育にとても力を入れており、多様性に向け大胆に改革されることを期待しています。本日はありがとうございました。

聞き手・藤えりか（朝日新聞経済部兼GLOBE記者）

●とう・えりか　京都府出身。同志社大学法学部政治学科卒業。朝日新聞記者として経済部や国際報道部、ロサンゼルス支局長などを経て現職。朝日新聞デジタルで「シネマニア経済リポート」を連載中。ツイッターは@erika_asahi

「京都の地で多様性の推進に向け改革を」

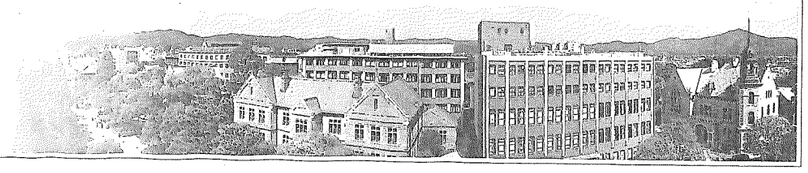
植木　春学期はチャペル・アワーの様子を撮影しホームページから見られるようにしました。学生の精神的な支援の一つになっていると思います。教職課程では人権教育が必修です。本学では教職課程を置くすべての学部の教員が、それぞれ専門の立場で人権を考えるリレー講義をします。教育実習に行く学生に人権への意識を高めてもらうためですが、教員自身の人権の学び直しにもなっています。

藤　最近、大学や権威に対する社会の反感を感じます。同志社大学には社会学部にメディア学科がありますが、メディアリテラシーがますます大事になっていると思います。

植木　SNSが登場し情報が瞬時に発信され、学生は疑わずにうのみにしてしまうところがあり危うさを感じます。学生に本学のメールアドレスを付与する時に、情報環境に関する知識やモラルを勉強してもらっています。

藤　同志社大学がある京都は歴史の宝庫です。キャンパスに重要文化財の建物が立つ学内を頂ける「チャベル・アワー」が好きで、人権教育にとても力を入れており、多様性に向け大胆に改革されることを期待しています。本日はありがとうございました。

同志社大学
Doshisha University
同志社大学学部入試
情報サイト開設
http://gakubunyushi.doshisha.ac.jp/



同志社大学
植木朝子学長

●うえき・ともこ　1995年お茶の水女子大学大学院人間文化研究科単位取得退学。博士(人文科学)。同大学助手などを経て、2005年同志社大学文学部国文学科助教授、07年同学科教授。17年から副学長。同年から教育支援機構長も務め、20年4月から現職。専門は日本中世文学。

「良心教育のさらなる浸透を目指します」